

令和3年度 川内中学校 学校評価計画

	重点課題	重点目標	活動計画	評価指標
学習指導	確かな学力の育成	①学習規律の確立を図る。 ②基礎基本の徹底を図る。 ③課題解決につながる思考力，判断力，表現力の育成を目指した授業改善を図る。 ④家庭学習の充実により，学習習慣を身に付ける。	①学校全体・全教職員で取り組む授業に臨む基本的姿勢の確立 ・「チャイム着席」「授業の準備物」「姿勢を正し，授業に集中する」 ・「川中学習ハンドブック」の活用と「授業のルール10か条」の徹底 ②徳島県学力向上プリントの活用等，プラス1課題の実践 ③「わかる授業」のために見通しのある工夫した授業の展開 ③-1 「目標の明示」→「課題解決のための学習活動」→「振り返り」 ③-2 ICT等，学習効果のある工夫と授業改善 ③-3 読書時間の確保・啓発 ④自主勉強「グリッドチャレンジ」の活用による家庭学習の充実	①授業の準備物ができて，チャイム着席ができる生徒が90%である。 ②授業内容の理解が十分である生徒が80%以上である。 ③-1 授業のめあてを示し，振り返りの時間を確保している教師が90%である。 ③-2 先生はよく分かる授業を実践していると答えた生徒が80%である。 ③-3 読書を1年間で10冊以上読んでいる生徒が80%である。 ④家庭学習が習慣化し，1日平均1時間以上学習に取り組む生徒が80%以上である。
道徳・人権教育	差別を見抜き許さない姿勢，不当な差別に立ち向かう行動力の育成	①言葉を大切にし，礼儀正しい態度を育成する。 ②自他の生命と人権を尊重し，人権意識と自己肯定感を育む。	①全教育活動を通して，礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導する。 ②年間指導計画を見直し，人権に関する講演会や人権集会を充実する。 ②-1 研究授業の充実 ②-2 道徳教育の推進・充実 ②-3 人権教育の推進・充実	①礼儀や言葉遣い，エチケットやマナーの指導を心がけていると答えた教師が90%である。 ②人を傷付けるような言動がなく，周りの人に優しく接している生徒が80%である。
健康・安全指導	心身の健やかな発育と自らの健康の保持増進に取り組む力の育成	①食育を推進し，基本的な生活習慣が身に付いた生徒を育てる。 ②生徒会による「自転車運転免許制度」を活用し，交通マナーの向上に努める。 ③防災学習や避難訓練の充実を図り，地域と連携した学校防災の意識を高める。	①食生活に関するアンケートを実施し，給食の時間，学級活動等において朝食の大切さについて指導するとともに，食育ボード等で啓発する。 ②交通指導計画に基づき，交通指導を徹底する。交通安全教室を実施する。 ③学校防災管理マニュアルに基づいて，避難訓練を実施する。南海トラフ地震の対応を行う。	①朝食を毎日食べる生徒が100%，栄養バランスのとれた食事ができている生徒が80%である。 ②交通ルールを守って登下校している生徒が90%である。交通安全教室を年間1回以上実施する。 ③1学期に校内研修での学校防災管理マニュアルを周知し，学期に1回程度避難訓練を実施する。
生徒指導	寄り添い，育てる，毅然とした生徒指導の充実	①問題行動やいじめのない学校生活を送る。 ②あいさつを励行する。	①学期に1回程度生活アンケートを実施し，生徒理解に努めるとともに，生徒指導委員会を通して，生徒の把握や情報の共有化を図る。 ②教職員や生徒会によるあいさつ運動を実施する。	①先生は相談したら誠実に対応してくれると回答した生徒が90%，一人一人の生徒理解に努めていると回答した教師が100%である。 ②あいさつをしている生徒が90%である。
特別支援教育	生徒一人一人の理解に努める適切な支援の実践	①生徒一人一人のよさや能力を引き出す教育を進める。 ②保護者との連携を密にして，共通理解のもと特別支援教育を進める。	①校内支援委員会の適宜開催や巡回相談を活用し，特別支援教育の充実を図る。 ②全ての生徒を対象に個々のニーズに対応した特別支援教育を推進するとともに，引継シートを学年・学校で共有したり，個別の教育支援計画・指導計画を作成し効果的に活用したりする。	①校内支援委員会を年間3回以上開催する。学年会を通して手立てを講じる。 ②学習の遅れがちな生徒に適切な支援をしていると回答した教師が90%である。
キャリア教育	発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進 社会的自立に向けた必要な資質・能力の育成	①体験的な活動を通して，「働くこと」の意義を理解し，将来の夢の実現のために計画的継続的に努力する生徒を育てる。 ②1学年から計画的な進路指導を行い，自分に適する進路を選択できる力を育成する。	①各教科等でキャリア教育の視点を取り入れ，キャリアパスポートを効果的に活用する。 ②3学年間を見通したキャリア教育全体指導計画を見直し，キャリア教育に関する講演会を実施する。三者面談を有効に活用する。	①将来の夢があり，目標をもって生活できている生徒が90%である。 ②家庭で進路や将来のことについて話をしていると答えた保護者が90%である。
開かれた学校づくり	家庭・地域との連携	①保護者・地域への情報提供をきめ細かに行う。 ②地域や関係機関と連携し，信頼関係を構築する。	①学年だより，個別メール，ホームページ等を充実させ，必要な情報を保護者・地域と共有する。 ②PTAや関係機関と連携・協力を図り，地域とともにある学校づくりを推進する。また，地域の人材を活用したり，地域の行事に参加したりする。	①学校は，情報提供が適切であると回答した保護者が90%である。 ②学校や家への連絡やPTA，地域との連携ができていると回答した保護者が90%である。